

宝木校区 人権推進協議会

あらゆる差別撤廃へ・男女共同
参画社会づくりをおして

会長 秋山 智博

この一年に町内や校区で取り
組まれた人権研修は、部落問題、
高齢者、病気にかかわる人、男
女共同参画、などありました。
それらを見たとき、あらゆる
差別には、共通点があるといえ
ます。

二〇一四年一二月に町内であ
った男女共同参画社会づくりの
講演会をおして考えてみたい
とおもいます。

内容は、男女平等を阻んでい
るものに、男とはこうあるべき、
女とはこうあるべきというある
時代や社会が生んだ枠組みがあ
り、それに、みせられたり動か
されていないだろうか、例を
あげて話されました。

男らしくあれば、男は強い、
大黒柱となって外で働く者、と
いう頑張れメッセージである。



ふれあい交流会ビンゴ大会風景

しかし、プラスもあれば誰に
も相談できないマイナスにもな
る。
自殺は男性の方が女性より多
い。

また、女らしくあれば、抑制、
やさしい、女性は家庭の中で、
育児や家事・介護に愛情をそそ
ぐもの。でしゃばるなメッセー
ジとなる。

この「らしさ」が男のくせに、
女のくせにとなり、男女の行動
を大きく縛ってきた要因と指摘
されました。

そして、この男女差別はつく
られたものであるとお話とし
たが、これは、どの差別にも同
じことが言えるとおもいます。

わたしたちは、「部落差別」、
「障害者差別」、「ハンセン病患
者への差別」、「外国人差別」、な
ど同じようにつくられた差別に
対し、片方に偏る「枠組み」の
中で生かされていなかったどう
かを見つめてみなければと感じ
ました。

これからの取り組みで、「枠組
み」にとらわれない生き方をめ
ざせば、個々の幸せな人生設計
や宝木校区の活力ある地域づく
りが出来るのではないでしょう
か。

少しでも実生活(私的)が法
律(公的)に謳われていること
に近づくよう行動し、社会を
変えていきましょう。

小地域懇談会を振り返って

推進員 藤本 高一

昨年十月より宝木校区九地区
の各会場で小地域懇談会を行
いました。

私は、宝木校区の人権啓発推

進員という立場で、下光元、夏
ヶ谷、常松地区の担当となり、
参加させていただきました。

参加していただいた方にでき
るだけ負担をかけたさたくない
という思いから、懇談会の進め
方を人権ビデオを視聴してい
ただく形をとっています。

今年度は、「今を生きる」、「認
知症の人の心を感じて」の二本
のビデオを視聴しました。

視聴した後、感想とか聞くこ
となく、人権ビデオを視聴して
人権について何かを感じとつて
いただければと思っています。

身近なところで大きな人権問
題はありませんが、広い日本で
は、重大な人権問題が起きてい
ます。

人権問題を発生させないため
にも、日頃の人権問題について
考え、研修をしておくことが大
切だと思えます。



小地域懇談会実施風景

宝木校区人権啓発推進協議会
役員研修に参加して

副会長 吉田 和行

日々の生活の、様々な場面で知らず知らずに潜んでいる人権に関する課題を、知り、正しい理解を求め、幸せて心豊かな人間関係を、と願いつつ、私たちが人権啓発推進協議会は日々取り組んでいます。

その活動として、十一月末、人権研修会を開催し、この度は、倉吉小鴨川西岸、中河原二地区での人権研修と、倉吉市内での江戸時代の倉吉淀屋はなしの歴史講演を聴講しました。

宝木地区公民館より車にて小鴨地区へ。まず小鴨川の氾濫により幾度となく、村ごと消滅の危機に脅え、甚大な被害に遭いながらも立ち上がった、中河原二地区にて現地研修しました。

洪水により多くの家屋が流され、困窮状態の地域を救うため、行政、議会、地域の皆さまの努力と理解により同和対策事業を利用しながら、集団移転事業に取り組み、幾世代に渡る懸案を



役員研修実施風景

新しいまち創りにて解決してきたとのこと。

まさに、人間としての生存権を理解し合い、地域ぐるみの協力体制によってなされた大事業であったことの説明を受けました。

倉吉市内での講演では、大阪淀屋橋の語源となった、中之島の豪商「淀屋」と倉吉淀屋との数奇で興味深い関わりについて学びました。テレビ、ラジオにすっかり馴染んでしまった昨今、温かみのある講師の語りにつと。

丸一日をかけ、災害と人権に関わる村おこし、また、豪商淀屋を通じ、商都大阪と倉吉の町おこしについて学び、知る喜び、解る楽しさを胸に湛えた一日でした。

3月1日(日)宝木地区公民館にて「ふれあい交流会」が開催されました。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。



ふれあい交流会に参加して
多歌楽コーラス 宝木 富山 圭子

コーラスとしては三回目になりますが、私自身初めて参加しました。

最初に「生まれ来る子へ」というビデオ視聴をし、鳥大生による落語、酒ノ津の方の銭太鼓・傘踊りと続き、いよいよ出番。今回は五人と少ない人数だったけど、皆さんにはどの様に聞こえたでしょうか。

その後のゲーム等には参加できなかったけど、子どもから大人までの方が一つの班になり、ゲームで楽しむ機会は少ないと思います。

この様に地域の方々とのふれあいの場に参加でき、とても良い一日を送る事が出来たと思います。



多歌楽コーラスさん



シーサイド
ひまわりさん



鈴の音サークルさん

編集後記

今年度も多くの方々にご協力いただき、宝木校区人権啓発推進協議会の全事業を終えることが出来ました。ありがとうございました。

また、たより発刊にあたり、原稿を快く引き受けてくださった方々に厚くお礼申し上げます。二十七年度も御協力よろしくお願いたします。